

## 醍醐寺「友の会」入会ご案内

醍醐寺では、一年を通じて醍醐寺に何度でも心置きなく足を運んでいただくことのできる「醍醐寺友の会」を設けております。

### 醍醐寺友の会

- 個人会員 年会費 3,000円
- 個人正会員 年会費 10,000円
- 特別個人会員 年会費 30,000円

※個人会員の特典

- ①醍醐寺年中行事のご案内
  - ②会員証提示により三宝院・伽藍・上醍醐入山料が無料(会員本人)
- このほか、個人正会員、特別個人会員は霊宝館の入館料や、駐車料金が無料など、他にも特典がございます。

お問い合わせ、お申し込みは、醍醐寺寺務所まで。

## 登録会員大募集！ メールマガジン

### ＊「醍醐寺だより」＊

いつでもどこでも醍醐寺の情報をキャッチできる便利なメールマガジン1100年の祈りの世界、醍醐寺より皆様にお届けします！

「桜だより」「もみじだより」など四季折々の見どころや行事案内をいち早くお知らせ

10万点を超す伝承の至宝もセレクトしてご紹介します。

ほっこりと心が温まるひとこと法話も配信！どうぞお楽しみに

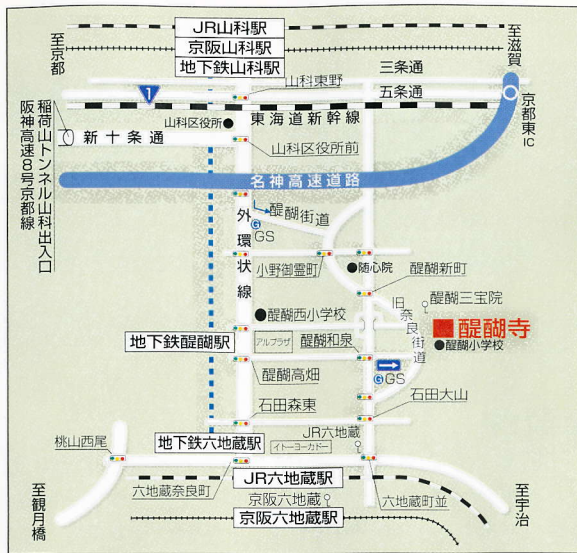
携帯電話からは

QRコードを  
読み取ってください



パソコンからは

醍醐寺ホームページ  
(<http://www.daigoji.jp/>)  
上の登録ボタンから



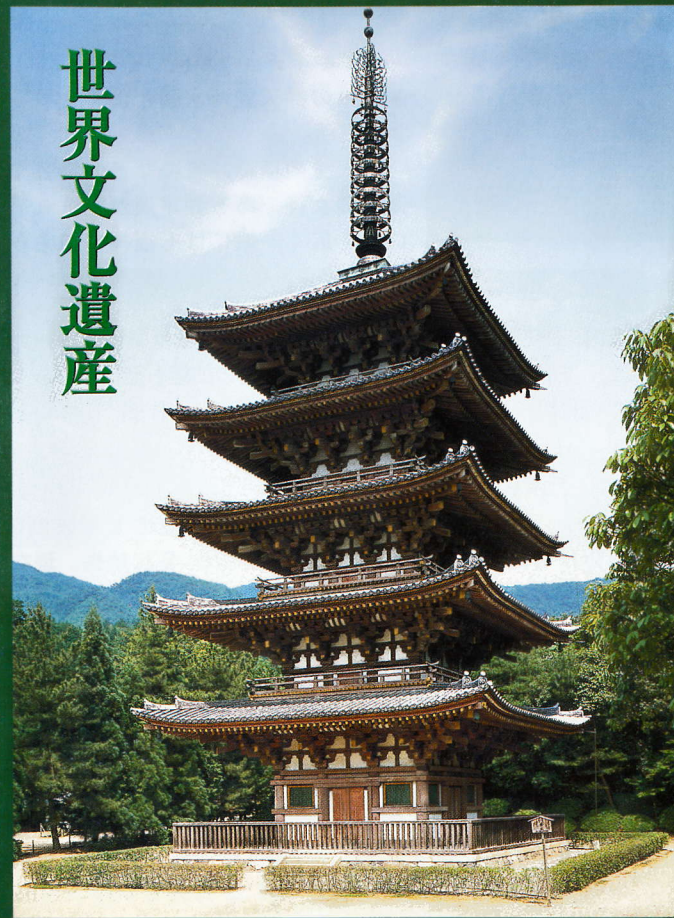
## 醍醐寺への交通アクセス

JR 京都駅	琵琶湖線・湖西線 奈良線	約5分 約15分	JR山科駅／京阪山科駅 JR六地蔵駅
京阪 中書島駅	宇治線	約5分	京阪六地蔵駅
京阪バス 22系統	山科駅～ 六地蔵駅～	約20分 約15分	醍醐三宝院 徒歩すぐ
京阪バス 山科急行線	JR京都駅八条口(ホテル京阪前)～	約30分	醍醐寺 下車すぐ
京都市営地下鉄 東西線	山科駅～ 六地蔵駅～	8分 5分	醍醐駅 徒歩13分

## 総本山 醍醐寺

〒601-1325 京都市伏見区醍醐東大路町22  
TEL.075-571-0002 FAX.075-571-0101  
<http://www.daigoji.jp/>

## 世界文化遺産



## 醍醐寺

Daigoji Temple



# 醍醐寺

真言宗醍醐派の総本山。醍醐寺は弘法大師の孫弟子、理源大師・聖宝が、貞観16（874）年に創建した。山岳信仰の霊山であった笠取山（醍醐山）に登った聖宝は、白髪の老翁の姿で現れた地主神・横尾明神より、こんこんと水（醍醐水）が湧き出るこの山を譲り受け、准胝・如意輪の両観音を刻み、山上に祀った。それが醍醐寺の始まりである。



理源大師・聖宝

開創後、醍醐・朱雀・村上の三代にわたる天皇の深い帰依によって山上に薬師堂、五大堂、山下に釈迦堂、法華三昧堂、五重塔などが次々に建立され、山上山下にまたがる大伽藍が完成した。通称、山上を上醍醐、山下を下醍醐と呼んでいる。



醍醐水

以後も、皇室をはじめ貴族や武士の支援を得て、三宝院をはじめとする諸院や種々のお堂が建立され、真言密教の中心的寺院として多くの信仰を集めている。



太閤さんと花見短冊

しかし、長い歴史のなかで何度も火災にあい、文明・応仁の乱では五重塔を残して下醍醐は焼失、上醍醐も荒廃。

ながらく復興に至らずにいたが慶長3（1598）年の春、豊臣秀吉が開いた「醍醐の花見」を契機に秀吉並びに秀頼によって金堂や三宝院、また、山上では開山堂や如意輪堂などが再建された。

江戸時代に入ると、醍醐寺歴代座主が居住する三宝院が、幕府より当山派修験の本山であると明確に位置づけられた。そのことにより、山への信仰が高まり、再び活気を取り戻していった。

明治維新後の「神仏分離令」や「修験道廃止令」などの数々の法難で大打撃を受けたが、歴代座主の尽力により、開山以来、醍醐の教えは燈し続けられ現在に至っている。

一千百有余年の歴史をもつ醍醐寺は、日本仏教史上枢要な位置を占め、長年護り続けられてきた寺宝類の多くは国宝、国の重要文化財の指定を受けている。平成6（1994）年にはユネスコの「世界文化遺産」に登録された。

## 醍醐寺年中行事のお知らせ

- |       |             |                        |
|-------|-------------|------------------------|
| 1月    | 5日          | 年頭式（金堂及び柴燈護摩道場）        |
|       | 6日          | 初聖宝会（開山堂）              |
| 2月    | 3日          | 節分会                    |
|       | 15～21日      | 五大力尊仁王会前行              |
|       | 23日         | 五大力尊仁王会 <b>—五大力さん—</b> |
| 3月    |             | 上醍醐回峰行（春の峰）            |
|       | 中旬          | 春季彼岸会                  |
| 中旬～   | 5月中旬        | 靈宝館春期特別展               |
| 4月    | 1日          | 桜会開白・大般若転読法要（下・清瀧宮拝殿）  |
|       | 第2日曜日       | 豊太閤花見行列                |
|       | 15日         | 桜会中日・恵印三昧耶法要／大蔵流奉納狂言   |
|       | 21日         | 桜会結願・柴燈護摩供（柴燈護摩道場）     |
| 5月    | 15～21日      | 西国第11番札所本尊曼荼羅供         |
| 6月    | 15日         | 弘法大師降誕会（祖師堂）           |
| 7月    | 6日          | 開山忌（開山堂）               |
|       | 13～15日      | 盂蘭盆会                   |
| 8月    | 5日          | 万灯会                    |
|       | 6日          | 虫除け虫封じ祈願（開山堂）          |
| 9月    | 中旬          | 秋季彼岸会                  |
| 9月中旬～ | 12月初旬       | 靈宝館秋期特別展               |
| 11月   |             | 上醍醐回峰行（秋の峰）            |
| 12月   | 31日         | 除夜の鐘（金堂前・鐘楼堂 他）        |
| 毎日    | 10:30/14:00 | 観音経読誦会（金堂）             |
| 毎日    | 13:00       | 祈願護摩供・廻向（報恩院）          |
| 毎月    | 6日          | 理源大師法要                 |
| 毎月    | 29日         | 五重塔開扉・納経法要             |

## ●弁天堂



紅葉やイチョウが色づく季節には、朱塗りの弁天堂が水面とよく合う紅葉の名所。

弁天堂内には、音楽などの学芸や知識の女神である弁才天が祀られている。広く一般には七福神に加えられている。

## ●観音堂

西国三十三観音霊場第11番札所上醍醐准胝堂の遙拝所として、准胝観世音菩薩が祀られる。札所の納経も受けられる。その他に大日如来座像、深沙大将などが安置される。

## ●真如三昧耶堂

もとは朱雀天皇の御願により法華三昧堂として天曆3(949)年に創建されたが、文明2(1470)年に焼失。現在の堂は平成9(1997)年に真如三昧耶堂として建立された。

## ●不動堂・護摩道場



さいとうごま  
柴燈護摩

堂内には不動明王を中心に五体の明王を安置する。また、堂前の護摩道場では、当山派修験道の柴燈護摩が焚かれ、世界平和など様々な祈願を行う。

## ●金堂 (国宝)



醍醐天皇の御願により延長4(926)年に創建された。当時は釈迦堂といわれていたが永仁、文明年間に二度焼失した。現在の金堂は豊臣秀吉の命によって紀州(和歌山県)湯浅から移築が計画され、秀頼の時代、慶長5(1600)年に完成した。この金堂が、醍醐寺の中心のお堂であり、安置されている薬師如来坐像が醍醐寺の本尊である。(西国三十三観音霊場第11番札所/近畿三十六不動霊場第23番札所/西国四十九薬師霊場第39番札所/十八本山/神仏霊場 各納経所)



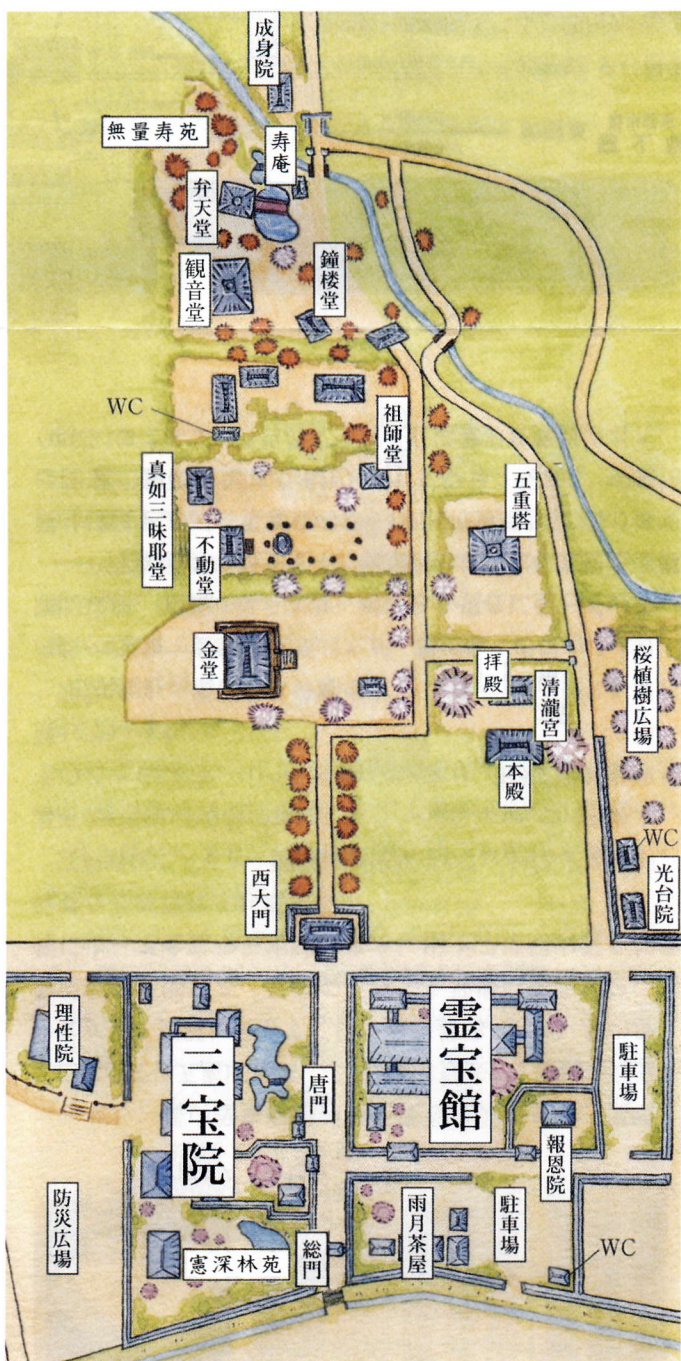
## ●三宝院

永久3(1115)年、醍醐寺第14世座主勝覚僧正の創建。現在の三宝院は慶長3(1598)年、豊臣秀吉により再建されたもので、唐門や表書院は国宝に、その他の建造物は大半が国の重要文化財に指定されている。また、桃山時代を代表する秀吉設計の庭園は、特別史跡・特別名勝に指定され、太閤秀吉の栄華を偲ばせる。



## ●上醍醐

下醍醐から約1時間、山道を登ると醍醐寺開創の起源となった醍醐水をはじめ、西国三十三観音霊場第11番札所・准胝堂がある上醍醐に到着する。上醍醐には薬師堂（国宝）、清瀧宮拝殿（国宝）、開山堂（重文）、如意輪堂（重文）などがある。また、重文に指定されている五大明王を祀る五大堂は「五大力さん」の名で知られる災難除けのお札「御影（みえ）」の祈願を行うお堂で、参拝者の姿が絶えることがない。



## ●成身院

上醍醐への登山口にあたる。通称「女人堂」といわれる現在の本堂は江戸初期の再建といわれている。本堂前には山側から不動明王、理源大師、弥勒菩薩、役行者、地蔵菩薩が祀られている。

## ●祖師堂

真言宗を開いた弘法大師・空海と、その孫弟子で、醍醐寺を開創した理源大師・聖宝とが祀られている。弘法大師の誕生日である6月15日には、盛大に降誕会が行われている。

## ●五重塔（国宝）

醍醐天皇の菩提を弔うため、第一皇子・朱雀天皇が承平6（936）に着工し、第二皇子・村上天皇の天暦5（951）に完成した。初層の内部には両界曼荼羅や真言八祖が描かれている。高さは約38メートルで屋根の上の相輪は約13メートルあり、相輪が塔の三分の一を占め、安定感を与えている。

## ●清瀧宮本殿（重文）

醍醐寺の鎮守社。永長2（1097）年に、最初に建立された上醍醐より分身を移し祀った。その後、この社殿の前で清瀧会（桜会）が行われるようになった。なお、現在の社殿は永正14（1517）年に再建されたもので、毎年4月1日から21日まで、清瀧権現桜会の様々な行事の中心となっている。

## ●西大門

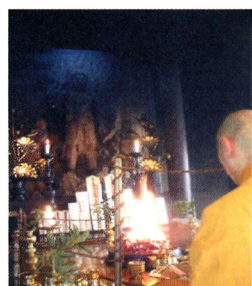
慶長10（1605）年、豊臣秀頼の再建。仁王像は平安後期の長承3（1134）年、仏師勢増・仁増の造立。通称「仁王門」といわれる。

## ●靈宝館



国宝や重文だけで4万点、未指定の文化財を含めると、約10万点余りに及ぶ寺宝を収蔵。彫刻、絵画、工芸、古文書など、日本の仏教史や美術史上貴重な史料が収蔵されている。春と秋に一般公開を行っている。

## ●報恩院



護摩祈願

もとは上醍醐にあった極楽坊を醍醐寺第35世座主憲深僧正が活動拠点とし、報恩院と名前を変えたことに始まる。その後、後宇多法皇の命により下醍醐に移り、明治時代にここに移った。

ここでは毎日午後1時から、堂内で護摩が焚かれ、本尊・不動明王に家内安全、商売繁盛、厄除招福を、また、堂前では自動車交通安全をご祈願している。